

## ☆ 第11回 府中療育センター祭 特集 ☆

こうして2日間を1日に凝縮したセンター祭はフィナーレを迎えます。閉会式ではメタセこいやんがサプライズで登場し、元訓練科職員の成澤さんが手作りされた素敵なメタセこいやんマスコット人形を、利用者さん全員にプレゼントされました！会場全体が一つになる、素晴らしいパフォーマンスでした。

最後は事務長の御挨拶の後、三本締めにてセンター祭は無事に幕を閉じました。

今回のセンター祭では、長年センターに来てくださっているボランティアの皆様の御協力もあり、1日だけの開催にも関わらず昨年に負けない盛り上がりを感じました。御協力いただいた全ての皆様に心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

来年度の新センター移転を控え、現センターでの開催は今回で最後となりましたが、新しいセンターでも利用者の方さんや御家族の皆様、また、地域の方々と力を合わせて皆様を楽しめる「センター祭」を開催できるよう、新たな気持ちで取り組んでまいります。

### 【協力団体（敬称略、50音順）】

社会福祉法人若松福祉会「ギャロップ」（府中市）、社会福祉法人ひばり福祉会「集いの家」、集いの家（府中市）、都立府中けやきの森学園、都立武蔵台学園、府中刑務所、府中療育センター家族会  
～御協力ありがとうございました～

## 軽スポーツ大会に参加しました

指導科 石田 泰美

9月28日（土曜日）に、「府中市みんなで楽しむ軽スポーツ大会」に参加しました。

例年は5月に行われているこの行事ですが、今年は会場の府中市民陸上競技場が改修工事を行っていたため、秋の開催となりました。府中市内の様々な障害者施設が参加し、当センターからは、午前の部に2名、午後の部に4名の利用者さんが参加しました。

午前の部は「玉入れ」「パンくい競争」「大玉転がし」を行い、他の施設の方と一緒にはりきりました。大勢で行う競技は迫力があり、盛り上がった雰囲気を満喫しました。

午後の部は、「車椅子競争」「釣りバカ日誌（魚釣り）」「紅白リレー」を行いました。中でも「紅白リレー」は、4名の方がそれぞれ車椅子で自走したり、ウォーカーで歩いたり自分のやり方で参加しました。他の施設の同じチームの選手からバトンを受け継ぎ、次の選手へしっかりと手渡し、見事白組が優勝しました。

半日ずつの参加でしたが、秋空の下で、様々な施設の方と一緒に体を動かし、楽しいひと時を過ごしました。



〒183-8553

東京都府中市武蔵台2-9-2

東京都立府中療育センター

電話 042(323)5115

FAX 042(322)6207

\*-\*-\*ホームページもご覧ください\*-\*-\*

<http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/fuchuryo/index.html>



## ☆ 第11回 府中療育センター祭 特集 ☆

10月11日（金曜日）、第11回府中療育センター祭を開催しました。

台風の接近に伴い、10月12日（土曜日）の予定を中止し、11日も午後から悪天候が予想されることから屋内での開催となりました。皆様には御不便をおかけしましたが、センターの狭い廊下は、掲示等をご覧になる利用者さんと御家族、また出店された方による販売、職員の往来とで大賑わいでした。

当日は朝10時半、通所棟2階の理学療法室にて院長先生に開会の御挨拶をいただき、続けて毎年恒例となった「ハッピーバズーカ」の発射を合図にセンター祭が始まりました！

まず、舞台発表のコーナーでは、くぬぎ分教室、通所、1-A病棟及び2-A病棟の皆さんが発表を行いました。

演劇や大道芸、ダンスなど今年も個性豊かな発表が盛りだくさんで活気があふれ、会場では利用者さんや職員のパフォーマンスにこだまするような大きな笑い声や歓声がセンター全体に響きわたっていました。

続けて行われた「トモキチ笑劇場」さんのマジックや腹話術の舞台では、人形の動きにつられて自然と利用者さんたちの身体が動いたり、一緒に歌ったりして、その演技に酔いしれる人もいました。また、トモキチさんは舞台の後、病棟を訪問してくださり、会場まで足を運ぶことができなかった利用者さんのベットサイドまで笑いを届けてくださいました。



開会式の様子



舞台発表の様子



トモキチ笑劇場さんによる舞台

# ☆ 第11回 府中療育センター祭 特集 ☆

指導科 田中 栄美



人気の食べ物コーナー

舞台発表コーナー最後の「人生の節目を祝う会」では、今年成人・還暦・古希をそれぞれ迎えられる12名の利用者の皆さんが、この日のために用意したきれいな衣装を身につけて、お祝いの言葉と記念品を受け取られました。みんな満面の笑顔で、とても素敵な瞬間でした。

当日は舞台発表以外にも様々なイベントが行われました。

「食べ物コーナー」では、目玉メニューとして牛丼業界初！？となる「吉野家の牛皿の介護食」を提供しました。咀嚼や嚥下が難しい方でもお店の味が楽しめるように工夫された牛皿で、実際に召し上がった利用者さんも美味しそうに頬張り笑みがこぼれ、おすすめの一品でした。他にも「あんころもち」などのスイーツも美味しくて、おかわりする人もいました。

「ゲームコーナー」では、パラリンピック公式競技の「ボッチャ」や「宝探しゲーム」を開催しました。職員やボランティアの方々と一緒に、ボッチャのボールを転がしたり、カゴに埋まったお宝をすくい上げたりして楽しんでいました。

「サイコロビンゴゲーム」と、「癒しの時間をあなたに♥」をキャッチフレーズにした「ディスクオルゴールの演奏」は病棟への出張も行い、利用者さんに喜ばれました。

「全体制作コーナー」では、ラグビーワールドカップの開催にちなんで「〇〇を応援します」をテーマに、ラグビー日本代表のリーチ・マイケル選手がトライする姿に応援メッセージを書いて完成させていきました。制作を開始したのはワールドカップの開始前でしたが、日本代表チームが予選リーグを突破したこともあり、応援メッセージも日本から世界に向けて発信しているようで、でっかい気分を味わっていました。



「ボッチャ」のプレイ風景



全体制作コーナーのパネル展示

イベント気分を盛り上げる「ネイル&タトゥ」コーナーでは、アイドルの写真やアニメのキャラクターなどをかたどったタトゥを頬や手の甲、腕につけてオシャレを楽しみ大好評でした。

別館のあじさい館では「感覚刺激コーナー」と題してスヌーズレンの体験コーナーを設けました。また、第1回から第10回までのセンター祭のダイジェストをまとめたパネル展示を行い、お祭りの歴史を振り返りました。

1階廊下の「展示コーナー」では、各病棟や部署で制作した展示物が所狭しと並んでいました。病棟の全員をオリンピック選手に見立てて様々な種目を再現した展示や、利用者の皆さんに提供している食事を食べやすく調理する工夫をまとめた展示など、各部署が工夫を凝らした多くの展示物の中で、感染対策クイズラリーの展示が院長賞を受賞しました。

また、院内だけでなく外部団体の方々にもセンター祭に御協力いただき、お祭りを一緒に盛り上げていただきました。

定番となった家族会の皆様による「わたあめ」は、利用者さんをはじめ、大人も子どもも大好きです。皆さん嬉しそうに食べていました。

地域の作業所等の出店コーナーでは、パンやコロケ、雑貨などバラエティに富んだ商品が並んでいました。販売開始と同時に長い列ができ、すぐに完売する商品もあり、お店の方との会話も弾んで今年も大好評でした。

都立学校からの出店では、都立武蔵台学園と都立府中けやきの森学園の生徒さん達が作品を販売されました。生徒さん達の明るく元気な声で売り込みする姿が印象的で、あっという間に完売しました。



あじさい館の感覚刺激コーナー



感染対策のパネル展示（院長賞受賞）



様々なお店が並んだ出店コーナー